

令和3年 KAKKIN 平和集会アピール

本日、平和集会の開催にあたり、原爆犠牲者の御霊に心から哀悼の意をささげますとともに、新たな決意で核兵器廃絶に向けて運動を進めていくことをここに誓います。

今年1月に核兵器禁止条約が発効し、また2月にはアメリカとロシアの核軍拡競争を抑制する枠組みが5年間延長されるなどの動きはありましたが、核兵器をめぐる状況は危機的です。

ストックホルム国際平和研究所によれば、2021年1月現在、世界にある核弾頭の数は13080発で、前年よりも320発減っています。これは総数の9割以上を保有するアメリカとロシアが、老朽化した兵器を廃棄したことによるものです。ただこの中には解体予定の核弾頭も含まれており、それを除くと世界の核弾頭数は逆に昨年よりも増加し、また作戦部隊に配備されている核弾頭も増えています。そしてアメリカ、ロシア以外の核を保有している7カ国も、新型核兵器の開発・配備、あるいはその計画を発表しており、軍事戦略における核兵器の重要性が高まっています。加えて核兵器の近代化も着々と進められており、実質的には核増強ともいえる情勢です。

こうした中において KAKKIN は、核兵器禁止条約の発効も国際社会が核兵器廃絶を望んでいることのあらわれと考えます。そして日本政府に対しては、核保有国がこの事実を重く受け止め、真摯に核兵器削減に向けて話し合いを進めるよう、被爆国として積極的に役割を果たすことを求めます。

一方、地球温暖化問題への関心の高まりから、世界的に脱炭素の動きが進んでいます。日本も昨年10月、2050年カーボンニュートラルを宣言しましたが、私たちはエネルギー問題を考える際、S+3Eすなわち安全性そして安定供給、経済性、環境の視点とエネルギーのベストミックスの考え方を忘れてはなりません。

カーボンニュートラルは技術開発でもコストの面でも極めて野心的な挑戦です。そこでは目標は高く掲げつつも、現実的に対応することが重要です。カーボンニュートラル実現に向けては、再生可能エネルギーの利用拡大だけではなく、あらゆる手段を動員する必要があります。とりわけ原子力は脱炭素の時代にあって、これまで以上に重要なエネルギー源です。国内の産業を維持し、国民の雇用と生活を守り、地球温暖化を阻止するため、安全性の確認された原子力発電所の早期再稼働が必要です。

私たちはあらためて核兵器廃絶と原子力の平和利用推進の意義を再確認し、真に平和で豊かな世界を実現するため、これからも運動を進めていきます。

核兵器廃絶・平和建設国民会議

令和3年8月5日 広島平和集会

令和3年8月8日 長崎平和集会